

学生の皆さんへ

在広学生寮の閉寮について

学生部

在広学生寮（青雲寮・山中寮・薫風寮）に関する基本方針が、平成六年一月二十五日の評議会において左記のとおり決定されました。

記
広島大学統合移転計画に基づき、在広学生寮の処置について次のとおり基本方針を決定する。

広島大学

基本方針

一、青雲寮及び山中寮は、統合移転に伴う跡地処分計画により、平成八年三月をもって閉寮し、廃寮とする。

二、薫風寮については、土地・建物を中国財務局から平成七年三月まで借用しているため、借用期間満了をもって返還し、閉寮とする。

学生の皆さんにその事情の概略を説明いたしますので、ご理解と協力をお願いいたします。

統合移転の計画

旧制の官・公立の大学や専門学校等を包括して発足した新制広島大学は、前身校数が全国一に多く、学部や分校などが県内各地に分散しておりました。

基本方針の検討

以上の状況を考慮して、学長は、平成五年七月の部局長連絡会議において、在広学生寮に関する基本方針を検討するよう、学生委員会に対して指示をしました。

学生委員会は、学寮専門委員会を中心にこの問題の検討を進め、在寮生の便宜を配慮し、返還期限の最大限の延長を関係機関に働きかけた結果、平成八年三月三十一日までの使用について了承を得ることができましたが、もはやそれ以上の延期は許されない状況にあります。

平成五年十二月三日の学生委員会において二項目の基本方針案を決定するに際しては、各学部を持ち帰り学部教授会の承認も得ました。他方、学生委

総合大学として、教育・研究のみならず、管理・運営の面でも多くの不利・不便が生じたため、昭和四十年代において統合移転の問題が本格的に検討され始め、昭和四十七年十一月二十四日の評議会において、大学としての意志決定がなされ、候補地の選定が行われた結果、昭和四十八年二月に西条の地が選ばれました。

西条新キャンパスへの統合移転は、土地の取得や建物の整備などに膨大な額の予算を必要とするため、昭和五十二年三月二十九日の政府閣議において、「賀茂学園都市における広島大学用地の整備について」とする閣議了解の事項の一つに、「移転統合に必要とする用地取得に要する費用及びこれに係る国立学校特別会計の借入金償還は、移転に伴い不用となる財産を時価により処分し、その収入をもって充てるものとする」ことが掲げられ、この条件のもとに、昭和五十三年に学部等移転の年次計画が策定されました。

その後、移転計画は、諸種の理由のため三度にわたる延期の修正がありました。したが、ようやく来る平成七年三月に予定学部の移転が完了する見通しがつかれました。現在、学校教育学部、法学部、経済学部の校舎建設が進行中であり、この三学部の移転をもって、学部

委員会では、本学としての最終決定が行われるのに先立ち、各寮の寮生代表者に対して学生委員会における検討経過の説明会を行う努力を続けてきました。統合移転に伴う在広学生寮の廃寮ないし返還は、基本的には西条キャンパスにおいて学生宿舎を整備するという本学の統合移転の基本計画に立脚するものであります。

ちなみに、西条キャンパスに新設されている学生宿舎は、完成済み四百二十人、平成六年三月竣工予定百人で、総定員は五百二十人となります。平成七年三月には、さらに百人増設されて、当初の計画である六百二十人が完成する予定であります。広島市内の三寮とちがっていずれも個室であって、男子学生用四百二十人（留学生五十人を含む）、女子学生用二百人（留学生五十

の移転計画は完了することになります。この見通しがついた時点において、本学としては、先の閣議了解の約束を履行するため、政府に対して、移転に伴って不用となる財産を返却する手だてを講ずる義務が生じます。すでに平成五年六月には、中国財務局長の諮問機関である「広島大学跡地有効活用研究会」の答申が出されており、その中において、千田町の学生寮の跡地には、医療・福祉のため研究や教育を含めた諸施設を設けることが提言されており

在広学生寮の現況

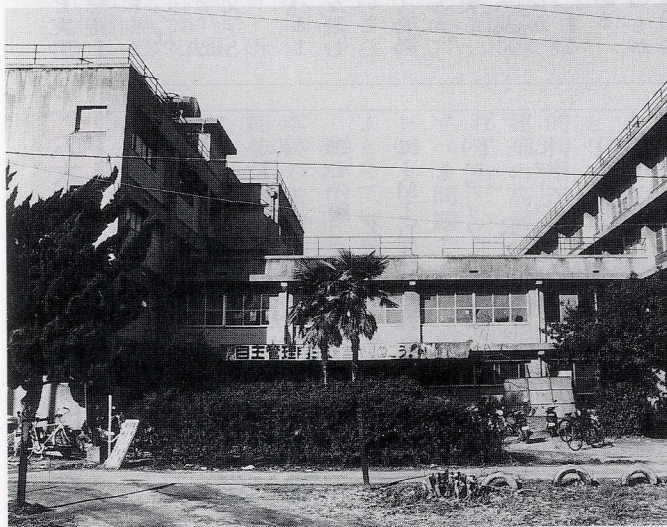
千田町の学生寮とは、男子学生用の青雲寮（南寮及び北寮）と女子学生用の山中寮をさします。入寮定員は、青雲寮が二百三十人、山中寮が四十八人であり、平成六年一月現在の入寮者は、前者が七十人、後者が三十七人です。両寮のこれまでの入寮募集要項には、

「本学は現在東広島市への統合移転が進行しており、学生寮についても移転計画に組み込まれている」旨を記載してきました。その時期を明示していないのは、東広島市への移転事業が、必ずしも計画どおり進むかどうか、不確定な面があったからです。

広島市には、左記二寮のほか、出汐二丁目薫風寮があります。定員は五十三人で、平成六年一月現在十八名が入居しています。薫風寮は中国財務局からの借用建物であり、大正二年

の建造物であるため老朽化も進んでいます。平成五年三月末に返還予定でありましたが、中国財務局における同建物の利活用計画の都合により、平成七年三月末まで借用が延期されました。平成五年年度の入寮募集要項には、「薫風寮については、平成七年三月に中国財務局に返還される予定である」旨を明記しています。

青雲寮北寮・南寮
昭和三十八年三月、現在の千田町二丁目に鉄筋四階建一八六四平方メートル、一八八名（一室四名）収容の寮を新築して学生部所轄とし、包括諸学校から引き継がれた「薫風寮・淳風寮・尚志寮」及び「政経寮」の学生を収容し、昭和四十年三月に南寮一六一三平方メートル、一一二名（一室二名）の寮を増築。薫風寮（この年青雲寮南寮の竣工に伴い、皆実分校内にあった薫風寮は廃止）の学生を収容した。



告示

在広学生寮（青雲寮・山中寮・薫風寮）の閉寮について

広島地区の青雲寮・山中寮及び薫風寮の三寮は、次のとおり閉寮する。

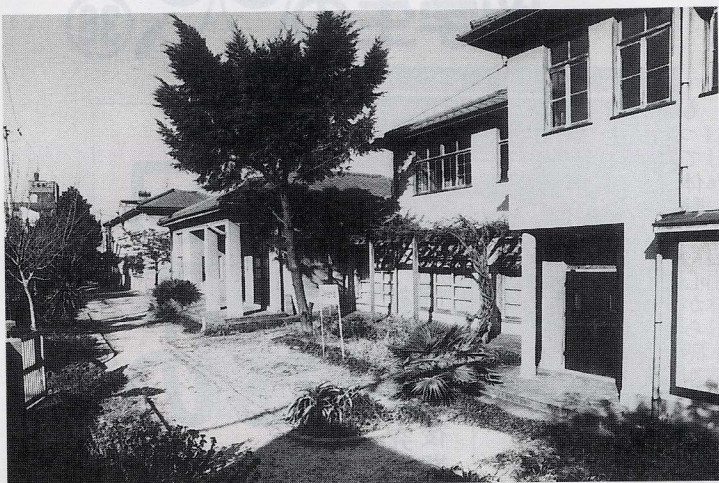
記

寮の名称 青雲寮
寮の所在地 広島市中区千田町二丁目五番三三号
閉寮時期 平成八年三月三十一日
閉寮理由 統合移転に伴う跡地処分のため

寮の名称 山中寮
寮の所在地 広島市中区千田町二丁目五番二九号
閉寮時期 平成八年三月三十一日
閉寮理由 統合移転に伴う跡地処分のため

寮の名称 薫風寮
寮の所在地 広島市南区出汐二丁目四番六〇号
閉寮時期 平成七年三月三十一日
閉寮理由 土地及び建物の借用期間満了のため
平成六年一月二十五日

広島大学



山中寮

昭和31年12月、千田町2丁目旧山中高等女学校敷地に木造2階建828平方メートル、48名（1室2名）収容の女子寮を新築。学生部所轄とし従前の「女子寮」の学生を収容した。寮のすぐ近くに、山中記念館（昭和29年旧山中高等女学校同窓会建築）があり、山中トシ氏に依頼して寮生の華道・茶道等の課外活動も行われた。



薫風寮

旧広島高等学校の寮であったものを、青雲寮南寮の竣工に伴い廃止し、昭和40年6月、元陸軍被服廠倉庫1488平方メートルを借用、学生部所轄とし、53名収容の薫風寮を開寮した。倉庫を改造したため、窓も小さく食堂・風呂等の設備も十分ではなかった。